

浜私幼

(公社)横浜市幼稚園協会 協会報 No287

公益社団法人 横浜市幼稚園協会 発行
 〒221-0055
 横浜市神奈川区大野町1-25
 横浜ポートサイドプレイス
 アネックス5F
 電話 045 (534) 8708
<https://www.kids-yokohama.or.jp>
 編集 横浜市幼稚園協会広報部
 発行者 清水純也
 印刷所 KAMEI STUDIO



公益社団法人
 横浜市幼稚園協会
 会長 清水純也

協会長からのご挨拶

少子化を バネとして

横浜市には公立の幼稚園はありません。昭和40年代前後、横浜では人口急増（10年間で1.47倍）のため、幼稚園が多く必要になってきましたが、小学校建設や保育所の整備で幼稚園（3～5歳児は1.77倍）まで手が回らなかったそうです。当時の市長から要請を受けた横浜市幼稚園協会では、当時の園長先生・理事長先生方で「私たちが仲間を増やし奮起して横浜の幼児の成長を支えよう！」と私立幼稚園が幼児教育を背負うようになったと聞きました。

あれから約60年、私たちも諸先輩方の想いを引継ぎ研修・研究を中心に保護者の皆さまのご理解とご協力を得て、行政の皆さまとも相談し合いながら一歩ずつ進めてきています。

現在、直面しているのは少子化です。とある視察研修で訪れた韓国では合計特殊出生率が0.78（ソウル市は0.55）と伺いました。（ちなみに日本は1.20、神奈川県は1.13、東京都は0.99）。また、4年後には幼稚園も保育園も（認定こども園は韓国にありません）3割が消えるだろうとの報道もあったそうです。

日本であろうが韓国であろうが、各地域で“乳幼児の通う園が無くなる”ということは、保護者の皆さん

にとって不便になることはおろか、卒園した子どもたちも残念な気持ちになると思いますし、近隣にお住まいの方との交流や子どもたちを見て自然に出る笑顔も、地域の子育て力も減ってしまうと言えます。

正直に言うと、園を運営していて地域の方に「うるさい」などとお叱りを受けることもあります。多くの近隣の方は目を細め子どもたちの元気な姿を温かく見守ってくださっているからです。

少子化を食い止めるために日本でも多くの予算を使ってきました。引き続き子育てへの国や行政の支援も必要だと思いますが、「子ども・子育て支援法」であるのなら、どのようなスタイルの園に通ってようが、共働きだろうがそうでなかろうが、親にとっては我が子が育っていく瞬間を感じるからこそ「子どもがいて良かった！」ということに繋がり、お子さんにとっても「この両親で良かった！」と思う瞬間ではないかと思います。その瞬間を増やすことが本当の「子ども支援」に繋がるのではないのでしょうか。費用の負担面だけでなく、心身共の成長も応援して欲しいと感じます。

一方では、私たち園の関係者も努力が必要です。大切な子どもたちがどのように育っているか、保護者の皆さまだけでなく、地域の皆さまに知っていただく機会をより多く設けなくてははいけません。今こそ“この地域にこの幼稚園あり！”と理解を求めていくタイミングだと思っています。

人格形成の基礎を養う大切な時期である乳幼児期を、広く社会全体で理解をしてもらえる雰囲気を作り、かけがえのない子が生まれ育つ大変さと喜びが社会の中で大きな価値になることを願い、そこに向かって努力していきたいと思っています。いつかお子さんたちが「横浜に生まれて良かった！」と感じてくれる瞬間を夢見て。



2024年度
幼稚園大会

「広げよう笑顔の輪 みんなでつくろう横浜の和」

公益社団法人横浜市幼稚園協会、横浜市幼稚園保護者の会及び公益社団法人神奈川県私立幼稚園連合会の共催により、2024年度横浜市幼稚園大会・教育研究大会が8月27日(火) 関内ホール大ホールで開催された。

今年度は「広げよう笑顔の輪 みんなでつくろう横浜の和」をテーマに、市内の幼稚園、認定こども園の教職員が集い、横浜市長、横浜市会議長、市会各会派団長、こども青少年局の職員、養成校の代表者、県内各協会長など多数の来賓の方々のご臨席のもと、502名の教職員が永年勤続表彰を受賞された。

はじめに、清水純也幼稚園協会会長が、永年勤続表彰受賞者への祝意と、日頃の保育への尽力に対する感謝の意を表した後、国が進めている新しい「こども誰でも通園制度」に触れ、「様々なことを取り組んでいる保育の現場がもっと認知され、大切な職場であることを社会に理解してもらおう努力が大切です。」と挨拶した。

次に、木元茂神奈川県私立幼稚園連合会会長が、教職員が就職したときから現在までを振り返りながら、

「皆さんが今日まで長い間仕事を続けてこられた大きな要因は、継続する力、人の意見に耳を傾ける力、柔軟に対応する力であり、何よりも人間が大好きということではないかと思います。」とお祝いの言葉を述べた。

続いて、田中千鶴保護者の会会長が挨拶し、「いつも笑顔で子どもたち一人ひとりと全力で向き合い、愛情を注ぎ続けてくださる先生方のおかげで、子どもたちは伸び伸びと成長していくことができる。」と、感謝の言葉を述べ、「種々の保護者会の活動を進めつつ、幼稚園協会の方々と連携協力しながら、幼稚園と地域社会の橋渡し役を務めていきたい。」と抱負を述べた。

次に、真栄田沙希保護者の会副会長から大会宣言案が提案され、満場一致で大会宣言が採択された。続いて、清水会長及び山中市長から勤続年数ごとに教職員に永年勤続表彰が授与された。

表彰後、来賓を代表し横浜市長と横浜市会議長が挨拶に立たれた。

山中市長は、受賞者にお祝いの言葉を述べた後、「皆



▲ 永年勤続表彰



▲ 市長表彰



▲ 横浜市長 山中 竹春 様

様方のご協力をいただいて、横浜市型の預かり保育事業は、市内の8割の園で実施しています。横浜市も全ての子ども達が、健やかに、そして明るい未来を感じ取ることができる街を目指していくので、これからも協力をお願いしたい。」と述べられた。

また、鈴木太郎市会議長は、「この度制定した横浜市こども・子育て基本条例では、こどもは社会の宝であり、未来を担うのは今を生きるこどもたちであるとしている。皆様方の努力の積み重ねや日々の保育が、未来の横浜を支えてくれている。」と、祝辞を述べられた。

最後に、受賞者を代表して大平彩教諭（むつみ幼稚園）

が謝辞を述べられ、「今日は盛大に式典を開催していただき、永年勤続の表彰を賜りましたことを感謝申し上げます。今日まで続けることができたのは、諸先輩方のご指導、輝く子ども達の笑顔、温かく見守ってくださった保護者の方々の協力があったからだと思います。これからも子ども達の成長を見守りながら、今できることを精一杯努めるよう精進して参ります。」と感謝の言葉を述べられた。

この後、教育研究大会全体会が行われた。

(文責：いいじまひがしこども園 須藤伊佐夫)



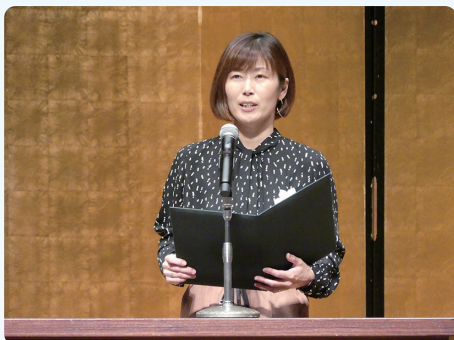
▲ 横浜市会議長 鈴木 太郎 様



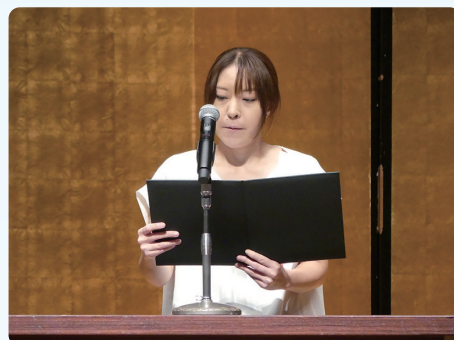
▲ 幼稚園協会 清水 純也 会長



▲ 県連 木元 茂 会長



▲ 保護者の会 田中 千鶴 会長



▲ 保護者の会 真栄田 沙希 副会長



▲ 受賞者謝辞 大平 彩 教諭



2024年度

教育研究大会

全体会

ともに育ちあい 一人ひとりが輝ける未来を

教育研究大会全体会では、渡邊英則横浜市幼稚園協会副会長の司会進行と関東学院大学の三谷大紀先生がコメンテーター、3名のパネリストにより、横浜市と横浜市幼稚園協会で行われた研修会の事例の紹介を交えたパネルディスカッションが行われました。

「横浜市における幼保小連携の取組」

パネリスト 横浜市こども青少年局幼保小連携担当課長 田村 憲一 先生

横浜市が大切にしていること

- 幼稚園・保育園と小学校の円滑な接続
- 双方の保育・教育の充実
- 幼保小がお互いを知ること
- お互いが取り組んでいることを尊重すること
- そのために顔を合わせて語り合う充実した時間

園での育ちと学びが小学校でも「使える実感」というのは、子どもたちが、園で夢中になって遊んできたことが、「園の時と同じだ」「きっとこうすればいいんだ」「なんとかかなりそうだ」と思えることが大切です。そのためには、園と小学校の先生たちが、お互いをよく知り、それぞれを尊重し合い、語り合うことが円滑な接続には、大切であると思っいろいろな研修会に取り組んでいます。

- 【動画視聴】** 幼稚園「泥団子作りからの発展」
 保育園「科学遊びを楽しもう」
 小学校「教室 虫いっぱい 大作戦」

コメンテーター 関東学院大学教育学部こども発達学科准教授 三谷 大紀 先生

「遊び」研究会（幼保小）の3つの事例から学ぶこと

- 子どもの「やってみよう」を尊重し、子どもとともに実現を試みている。
- 一人ひとりの子どものペースや興味・関心、思い、問いが大事にされている。
⇒「クラス」「1年生」「年長」とかではなく、その子の「声」を丁寧に聴く姿勢。
- 誰かのやっていることが魅力的に見えるから、真似や育ち合いが起きる。
⇒他者の「よさ」を見出し、他者とともに心地よさ・存在のありがたさを実感。
※結果として、一人の子どもの面白い・問い・やってみよう、緩やかに他児の面白い・問い・やってみよう（協働）になっていく。
- 遊びが面白いのは、着地点が見えないから（枠やゴールを、おとなが決めがち）。
⇒そのプロセス（試行錯誤、試す、失敗、納得がいかない、達成感等）のなかに、さまざまな学びや気づきがある（「育てる」ではなく、「育てている」）。
- 子どもの興味・関心を可視化する工夫がある。しかも、子どもをあらわすだけでなく、子どもと、あるいは、子どもがあらわす大事にされている。
⇒自分たちの探求の軌跡が、子どもにも、保育者にも、保護者にも、可視化されている。
⇒子ども同士の対話、保護者、保育者との対話や協働・参画が生まれている。
⇒自分たちの生活で出会うさまざまな出来事においても探求が広がっている。

映像を見ると、幼稚園、保育園でやってきたこと、学びや探求が、小学校にも繋がるのが円滑な接続であると垣間見えました。

子どもの声を聞いて、子どもにさせるわけでもなく、先生が全部やってしまうわけでもなく、子どもと試行錯誤する実践がありました。

また、「遊び」を考えたときに、いずれの事例も、そこに行き着くことは、先生方も予測していなかったと思います。子どもたちが探求していく過程で、偶然との出会いがあったりしながらいろいろ展開していきます。

こういった遊びを紡いでいき、価値付けしていくことが実は大事なのかと思いました。

「わくはま研修会」

市型預かり保育～わくわく！はまタイム～

パネリスト 和泉短期大学児童福祉学科教授 松山 洋平 先生

わくはま研修会のスゴイところ

- 「付け足し感」や「疎外感」「孤独感」を感じやすい預かり保育担当者を対象！
- 研修時間が9：30～12：00！
- 研修で作成した企画の実現のために、園長先生に協力を要請！
- 担当者同士が自園での取り組みの途中経過を伝え合っ一緒に考える！
- 可視化による振り返りと事例集の作成・配布！

【事例発表】

- 事例1 「縫物ブームは続く！～遊びを支えていく環境作り」
- 事例2 「大根作っちゃおう」
- 事例3 「忍者になって遊ぼう」
- 事例4 「夕方の空って面白い」

「預かり保育の質」を問うこと
=これからの幼児教育が担うべき課題への挑戦

- ◆ 個々の子どもの主体性や継続する遊びの重視
- ◆ 「遊びが学び」になるための環境構成の充実と工夫
- ◆ 園内の語り合う風土（同僚性）の確保
- ◆ 保育の計画や記録の可視化と共有
- ◆ 家庭や地域と連携・協働する保育実践 など

預かり保育を変えよう 預かり保育から変えよう

コメンテーター 関東学院大学教育学部こども発達学科准教授 三谷 大紀 先生

松山先生が「預かり保育を変えよう 預かり保育から変

えよう」とおっしゃっていましたが、預かり保育は、カリキュラムと時間に余裕があります。

子どもの声を聴くときに必要だと思うのが、偶然との出会いをいかに保障し、価値づけられるかということ。偶然との出会いは保育を計画通り進めるだけでは生まれません。

面白くなっていることが、拾えるか拾えないかというときに余裕がないと、拾えません。保育における余白とゆとりというものがとても必要になってくると思います。

「よこはま☆保育・教育宣言」 「園内研修リーダー育成研修」 「Yサポ事業」

パネリスト 横浜市子ども青少年局人材育成・向上支援担当課長
八木 慶子 先生

「よこはま☆保育・教育宣言」の紹介がされました。

《宣言1》 安心できる環境をつくり、一人ひとりを大切に保育します。

《宣言2》 子どもの育ちと学びを支える主体的な遊びを大切にします。

《幼保小の連携》

乳幼児期の育ちと学びを受け止め、小学校以降の学びにつなげます。

宣言の内容を具体的に実践していくために、園内研修や公開保育を推進しています。

その中の一つの「園内研修リーダー育成研修」の紹介がされました。

- 往還型研修のスタイル
- 公開保育も取り入れ、実践につなげる。
→ 公開保育を行う園には、学識経験者が訪問をして助言をする。

「Yサポ事業」の紹介がされました。

※ Yサポ：横浜市保育・教育向上サポーター

- 園内研修や公開保育の企画の相談や実施のサポートをする人材の育成
- Yサポの活動を通し、地域の保育、教育施設が横のつながりを深め、相互に保育の質の向上を図ることを目的に始められた事業です。

横浜市保育・教育向上サポーター **Yサポ**

よこはま (YOKOHAMA) 横からのサポート (Y(KO)ワイワイ盛り合う (YY))

2025年度
初年度

子ども青少年局の依頼する保育・教育施設への派遣 (2年目は2人1組) (年3回程度/施設)

公開保育実施園派遣の学識経験者に随行

「園内研修リーダー育成研修」における公開保育実施園への学識経験者派遣に随行 (年3回)

連絡会 情報共有を行います (年2回)

研修会 学識経験者とYサポの研修会 (年1回)

Yサポ認定要件

①横浜市子ども青少年局が実施する往還型研修うち右記のいずれかを修了 (右記の4つ)

②自園における園内研修、公開保育の実施経験があること

③他施設の園内研修、公開保育の支援等を行う資質があると施設長が認めるもの

保育士等キャリアアップ研修 幼児保育分野

保育士等キャリアアップ研修 乳児保育分野

園内研修リーダー育成研修

園内研修リーダーフォローアップ研修

Yサポ募集・申請

4月頃にKINTONEにて周知予定

毎年度8名程度認定予定

※ Yサポを派遣していただいた施設に、報酬をお支払いします。
公開保育への派遣24000円 (7/1回)、連絡会への参加16000円 (7/1回)

【お問合せ先】
横浜市子ども青少年局保育・教育支援課
人材育成係 045 (671) 2397

横浜市子ども青少年局保育・教育支援課 All Rights Reserved.

コメンテーター 関東学院大学教育学部こども発達学科准教授
三谷 大紀 先生

要は、多分3つ。1つ目は、園内研修をどうするか。2つ目は、公開保育をどうするか。3つめは、地域の保育の質を高めていくということ。その3つの視点が大事だと思います。

先程の映像や事例を見て、うちの園では無理と思う方がたくさんいらっしゃるのではないのでしょうか。しかし、やってみたいと思う方もいらっしゃるでしょう。

そういったときにYサポを活用することが大事になってくると思います。

横浜市や横浜市幼稚園協会の研修の意味とは、子どもや実践を「多義創発的にみる」ことを「おもしろがる」ことにあると考えます。

（子どもや実践を）「多義創発的にみる」とは・・・。

単に、多様な視点から「多様な解釈ができる」というだけの意味ではない。むしろ、多様な視点から、「多様な解釈が創発される」という意味。そして、「創発」は、発見と驚きをともなって生まれる。
(佐伯胖・刑部育子・刈宿俊文『ビデオによるリフレクション入門-実践の多義創発性を拓く』東大出版会、2018年)

「おもしろがる」とは・・・。

英語の「funny」や「ふざける」ということではない。英語の「interesting」に近い、好奇心や探求心に近いもの。
(自分の枠を取っ払って、相手の側に立ったりしながら、子どもの姿や自分自身の実践を味わい直すような感じ)

- 園内の子どもと大人が
- 園内の大人同士が
- 地域の園同士が
- 保育施設と小学校をはじめとする教育機関同士が
- 地域の住民や企業と保育・教育機関が
- 地域の保育・教育機関と養成校の教員が、養成校の教員同士が

横浜市という自治体や幼稚園協会を「hub」として、子どもという存在と、それを支える保育・教育の在り方を探求すること自体を「おもしろがるコミュニティ」を重層的に作っていくことに意味があるのです。

各園で（各保育者が）取り組んでいること、取り組んでみたいこと、悩んでいることなどを安心して持ち寄り、それぞれの立場を超えて、ともに子どもの姿や実践を味わい、喜び、悩み、面白がっていく（共創していく）ことが、園の保育はもちろんのこと、地域の保育・教育の質の向上につながっていくと思うと述べられました。

この後橋本元生横浜市幼稚園協会副会長が閉会を宣言し終了しました。

(文責：東台幼稚園 佐藤力弥)

令和6年度 横浜市幼稚園 新規採用教員研修会

横浜市こども青少年局
保育・教育支援課

小泉 一美

■5月22日(水) 南公会堂 ■8月1日(木)・2日(金) かながわ労働プラザ/横浜市技能文化会館/ながつた幼稚園内生きもの抹茶館

令和6年5月22日(水)と8月1日(木)・2日(金)に「令和6年度 横浜市幼稚園新規採用教員研修会」が開催されました。新規採用教員に先輩方からあついメッセージが送られ、とても実のある研修になったと感じます。

第1回 5月22日(水)

第1部

採用2年目の先輩教員3名が、昨年度1年間を振り返った体験談をお話しました。先輩の言葉にホッと参加者が多く新規採用教員の方々全員、真剣に先輩の話に聞き入っていました。

先輩の話を聞いての感想

先輩の姿を見て学んで、時に相談して、成長していかなければならないと感じました。また、自分自身も子どもたちと一緒にドキドキワクワク感動する経験を大切に、子どもって面白い！保育って楽しい！と思えるように、全力で遊んでいきたいと思いました。

第2部

グループディスカッションでは、自分と同じ悩みを共有したり、アドバイスし合ったりで、話も盛り上がり、笑い声も聞こえる有意義な時間になりました。



第3部

玉川大学教授の田甫綾野先生をお迎えして「遊びを通して子どもとつながる」という演題でご講演いただきました。「子どもの主体的な活動としての『遊び』は『無』から生み出されることではない。遊びたくなるような環境、思わずやってみたくくなるような環境が必要」というお話からは、環境構成の重要性が新採用教員の方々にも十分伝わったのではないかと思います。「幼稚園に来て、笑顔で子どもたちの前に立っているだけでもすごいこと」という言葉に励まされた先生も多かったのではないのでしょうか。温かいメッセージの詰まったご講演だったと感じます。



第2回 8月1日(木)

2日間にわたっての研修でした。1日目に行われたシンポジウムでは、経験を積まれた先輩の先生方に「今 伝えたい私の保育」というテーマでお話していただきました。



午後はグループディスカッションの後、ワールドカフェを行いました。ワールドカフェは、参加者全員が意見を言い合い、お互いの認識を深め新たな気づきを得たり、参加者同士の理解を深めたりすることが目的です。初めての経験でとまどいながらも参加者の方々が皆さん笑顔で取り組んでいたのが印象的でした。



第2回 8月2日(金)

第2回の2日目は選択実技の研修でした。「リズム」「身体表現」「造形」「自然」の4分科会に分かれ、研修が行われました。

「リズム」に参加した感想

「みんなと仲良くなるから音楽が楽しい」のか「音楽が楽しいからみんなと仲良くなる」のかわからないが、不思議なものでだんだん仲良くなり、だんだん楽しくなってくるものと聞き、確かにそうだとすごく納得しました。



「自然」に参加した感想

自然との関わりは「親しむ」「知る」「守る」の段階があり、特に幼児期では親しむことをとことんやってほしいという言葉が印象的でした。子どもたちと自然に触れ、楽しむことが大切だと知りました。



今回の研修で学んだことを大切にしながら、さらに学びを深めていただけることを期待しています。研修の詳細は横浜市HP「保育・教育の質向上 > 幼保小連携 > 研修・研究情報」をご覧ください。

体がそだつ、心もそだつ 外遊び



横浜市幼稚園協会 子育て教育相談員
公認心理師・臨床心理士

大森 由紀

二学期がはじまり、登園・降園する子どもたちの姿や園庭で遊ぶ子どもたちのにぎやかな声が、日常に戻ってきました。

厳しい暑さが和らぎ、屋外で過ごすのが気持ちいい季節になりましたね。みなさんは、お子さんとの外遊び、どんな風に過ごしていますか？

子どもが走り回れるくらいの広さのある公園で、かけまわったり、ボールを追いかけたり。ブランコや滑り台といった遊具で遊んだり、砂場での砂遊びやどろんこ遊びをしたり…。

めいっぱい体を使って遊ぶことは、体の内側にある臓器や脳にもよい刺激となり、様々な機能の成長が促されます。

外遊びがよいことはわかっているけれど、うちの子はインドアで…。子どもは外に行きたがるけれど、私は体力がなくて躊躇してしまう…。

そんなときにお勧めなのは、外に出て、ただ空をみあげてみることに。



空に浮かぶあの雲、なににみえる？
遠くからきこえるのは、鳥の声かな？
風が気持ちいいねえ。
葉っぱが揺れてるねえ。

みえるものに目を凝らし、きこえる音に耳を澄まし、感じたことを伝えあうこともまた、心を適度に刺激して、内面の力を育みます。

このような、“五感から得た情報をもとに周りの状況を理解し行動する力”を認知機能と呼びます。子どもの認知発達を研究した学者・ピアジェによると、ヒトは2歳から4歳頃までの時期に、イメージする力が芽生え、象徴的な行動を開始するのだそうです。

その結果、雲を綿菓子に見立てるような、頭の中で行為や物事を自由に思い浮かべる象徴的な遊びが、活発になるのですね。

またピアジェは、4歳から6歳までの子どもにみられ

る特徴の一つとして、物体があたかも靈魂を持っているようにとらえる傾向、ということをお話しています。靈魂、なんていわれると、大人はちょっと違和感を覚えるかもしれませんが、この時期の子どもは生物と無生物に対する認識の仕方が大人とは異なっているようです。活動するものがすべて生きているように考えることができるのが、この時期のこどもの持ち味、といえるかもしれません。大人になった私たちも、落ち葉が風に吹かれて舞い上がるのを見て、まるで踊っているみたい、と感じることはありますよね。そんな感覚の原点は、この時期にあるようです。

風に揺れる葉っぱをみて命を感じることができる。幼稚園時期の子どもたちは、そんな素敵な時間を生きているのです。

ですから、外に出て活発に遊ぶことだけが外遊びではなく、ただ空をみあげて雲の形に思いをめぐらせたり、風にそよぐ葉っぱにも語りかけたりすることも、この時期の子どもにとっては立派な外遊び。タブレットをながめているだけではなかなか得られない、才能の発露がここにあります。

大人の私たちも、スマホやパッドを一旦離れ、五感を澄まし、自分の五感をとおして周囲の状況をとらえてみることは、良いリフレッシュになりそうですね。この秋は子どもたちと一緒に外に出て、遠くの空をながめ、聞こえてくる音に耳を澄ませ、吹く風を肌で感じ、秋の匂いをかいでみませんか？

そこでとらえたものを分かち合うことは、子どもにも大人にも素敵な気づきをあたえてくれることなのでしょう。



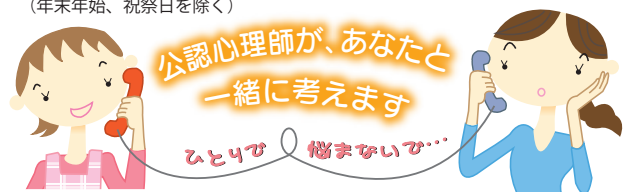
子育て教育相談室

相談日

受付時間

第2・4火曜日・毎週金曜日
(年末年始、祝祭日を除く)

10時～12時 / 13時～15時



相談専用ダイヤル

045-534-8837

公益社団法人 横浜市幼稚園協会

<https://www.kids-yokohama.or.jp>



相談の事前予約は
こちらから

保護者の会役員紹介

会長

田中 千鶴
(善隣館幼稚園)



子どもたちの笑顔のため、皆で協力して楽しく活動していきます。

副会長

真栄田 沙希
(野毛山幼稚園)



子どもたちの笑顔あふれる未来のため、今しかできない活動を多くの方に知っていただきたいと思います。

監事

葛西 桃子
(セント・メリー幼稚園)



沢山の貴重な経験をさせていただき楽しく活動しています！子どもたちに還元していけるように精一杯取り組みたいと思います。

会計

有田 希美
(フレンド幼稚園)



「笑顔」は未来に繋がる。子どもたち、ご家族みんなが笑顔になりますように。微力ながら精一杯務めてまいります。

大会参加報告

7月11日～12日、北海道札幌市で開催された「第62回政令指定都市私立幼稚園団体協議会札幌大会」に保護者の会から2名が参加しました。

二日間にわたる大会では、各都市の行政、私幼団体、PTAが集い、それぞれの立場から幼児教育・子育て支援の取り組み等について意見交換を行いました。

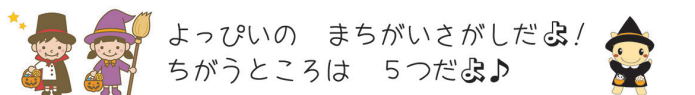
一日目の行政ミーティングは、就職フェア等の各種合同説明会のように、自分のタイミングで関心のあるブースに訪れ、説明を聞いた上で情報・意見交換を行い、互いにコミュニケーションを取りながら行われました。各ブースで活発に意見交換が行われ、それぞれが抱える課題や成果の出た取り組みについての共有ができました。

二日目は分科会に分かれての活動でした。私たち保護者の会は『PTAの立場から保護者支援の在り方について考える』のテーマのもと、札幌市の関連施設の見学、PTAに関連する教育相談や保護者啓発支援についての意見交換を行いました。また二日目の後半には、札幌の代表企業である石屋製菓の「白い恋人パーク」も見学させていただきました。

貴重な機会をいただき、充実した二日間となりました。二日間を通じて、参加者の皆様を持つ熱い思いを感じ、幼児教育についてこんなに心を傾けてくださっている人たちがいることに感動しました。微力ではありますが、私たち保護者の会も、子どもたちのためにさらなる教育・保育の質向上を目指して活動していきたいです。また、来年度の政令指定都市私立幼稚園団体協議会は横浜市で開催されます。今年札幌で学んだことを活かし、さらに有意義なものにしていきたいです。

セミナー告知

今年も『わくわく★子育てセミナー』を開催します！今年講師に丘山亜未先生(モンテッソーリスクールちいさなす 代表/おしごと育児協会 代表)をお迎えし、親子の悩みに寄り添った講義をいただく予定です。そして、セミナーの開催方法は時代に合わせた新しい方法を取り入れていく予定です！ご期待ください！



編集後記

今年の夏の平均気温は平年と比べて1.76度高く、気象庁が1898年(明治31年)に統計を取り始めてから去年と並んで最も高くなったそうです。2学期は運動会や体を動かす行事を予定している園が多くあることと思います。子ども達の健康に十分に配慮しながら貴重な経験となるように努めていきたいです。(広報部 認定こども園 上飯田幼稚園 内藤啓充)